

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	おいでおいでルーム
-----	-----------

取組の名称	子育て世代の寄りどころとなる実家的居場所提供
実施場所	自宅開放(川崎市中原区下新城 2-7-15)
対象地域	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎区・幸区・中原区・高津区他 ・横浜市(鶴見区・緑区)・東京都(目黒区)他
対象地域の特色・課題	<p>○コロナ以前の日常が全て戻ったわけではないが、子どもの笑顔と賑やかな声が響く。5類に移行し感染症対策は個人の責任に委ねられたが利用者さんは、4年間の積み重ねで衛生意識が身についた。引き続き居場所として、感染症対策意識の水準を保ち、安心安全な環境を整え健康の維持に努める。</p> <p>●年間を通し安全・安心・衛生的な環境の中で、感染症の発生や損害保険適用事案もなく提供できた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○ネット時代簡単に個々を中傷する社会であるが、『おいでおいでルーム=以下ルーム』という。ルームは子どものあるがままの姿多様性を認め、好きな遊びや人と関わることの楽しさを尊重しあい、泣いたり笑ったりしながら、親子が安心して過ごせる実家的な居場所は、大変ありがたいと利用者は言う。分け隔てなくお互いに共存し合える関係性を大事にする。</p>

●見学者が言う。誰が誰のママなのか、誰と誰が兄弟なのか
わからないぐらいみんなが安心してることがすごい。いろんな大人
が見守って支え合っていること。好きな物を食べることを認め合っ
ているランチ。自分の弟や妹のように赤ちゃんのお世話をしている
姿。子どもが集団生活する前に経験できる居場所であると。



○今は母親の社会復帰は早い。年度の前半八月ごろまでは、0・1歳
児の母親が、仕事と育児の両立が思った通りに行かず、子離れのさ
みしさと子育ての矛盾から気持ちが落ち込み、気分転換の立ち寄り
場としての要にもなった。ルームには、慣れ親しんだ遊具・ランチ
や惣菜の味等、ほっこりして子育ての疲れを癒し翌日への活力にな
っていた。

●専業主婦は減少、ほとんどの利用者が仕事復帰した。
特別休暇は、親子に取って離乳食も含めて食べない・眠らない遊ば
ない等、子育ての中で一番悩む時期でもあるが、ママ同士の会話の
中で、『我が家も同じ』に救われ、徐々に子どもとの距離感もできた。
復帰するまで離乳食や断乳を子どもの成長に合わせ進め見通せた
事が、その後の母子関係の良好につながった。

●保育園や幼稚園児が利用できる月1回の日曜オープンは
予約が取れない状況であったが、家族単位の利用も増え家族の関係
性が見え隠れし、子育ての悩みを共有することで、父親との関係が
良好になり膝に座り子どもを褒めるまでに親自身も育った。

○長年続けている季節のイベント特に6月親子で『梅ジュース』つ
くりを行う。このイベントは、多くの元利用者さん他が参加、令和
5年度は32家族が40キロの梅を仕込む。特に生きづらさを持ち合
わせた子どもや学童若者の現状や家庭環境・特に親子関係の重視
等、イベントを通して何気ない会話の中で現状把握ができる。結果

的に継続的なフォローにつながり、母親の心の拠りどころとしても毎年なくてはならないイベントであり今後も続く。

●梅ジュースづくりを通して、子どもの成長と共に、連絡が薄れがちになるが、社会的につながり見守りが必要なケースはこのイベントで、子どもの成長や家庭の状況を把握、子どもの持つ凸凹は、一長一短ではいかず『慌てない・焦らない・諦めない』ことを互いに確認し合った。

○令和5年度第二子出産が7人大きな喜びである。内6人が生後6ヵ月を過ぎ離乳食の時期を迎えている。母親が子育ての中で一番に最初に悩む離乳食、初期から完了期食の作り方・与え方を一緒に行う事で母親が安心する。また、個人差を大事に進めることで、食べる意欲が育ちみんなの励みになった。

※(初期食前の慣らし指導の無料も継続する)

第1子が2・3歳と一番やんちゃな時を迎え母親は疲弊しているが、お互いに支え合い子どもを見合いながら、安心して母乳やミルクの哺乳が出来ている。

※(新生児から乳児の3ヵ月間は利用代無料も継続する)

●離乳食児の年間利用は、第二子がほとんどであった。

そのほとんどが順調に進み、手づかみで食べるまでに育ち集団生活に入る。中には食品に過敏な子どももいたが「のんき・こんき・げんき」をとさえ、無理強いせずに進めた結果見通せるまでになった。

●食べる食べないは、母親のストレスとなるが、『好きな物があればいい・楽しく食べる』強要しないことを共有することで、その場の雰囲気も和み後々の安心感になった。



<p>取組の趣旨・目的</p>	<p>○社会全般には少子化は止まらない。働き方の改革でさえも「ワンオペ」の子育てにかかる母親の負担は大きい。近隣の幼稚園は、満1歳児の子どもと親を募集する等遊びの特色を出している。ルームの利用状況はどうか。第二子誕生が7人更に4月に2人生まれ9人になる。そのほとんどが、0歳児から2歳児の兄弟・姉妹ケースである。子育て世代の孤立化を防ぐためにも、母親同士の交流や親子がゆっくりと遊びランチを楽しみくつろげる場が必要今後も提供していく。</p> <p>●6年度は第二子兄弟ケースが4家族が利用すれば8人になり、第一子の遊びの相手や第二子の授乳の保障まで支える手が必要であったが、自然と支え合う仲間関係になり母親自身の精神的安定につながった。</p> <p>●第一子の女子2歳児が多かった。遊びのルールを覚えどンドン遊びを展開して楽しんでいた。また、赤ちゃんを見ると「かわいい」と取り巻く姿を見て周囲の大人が癒された。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;">   </div> <p>○子どもの個人差を大切に生きる力を育てたい。そのためには、土いじりと収穫・お散歩や公園遊び・室内遊びの充実・楽しいランチ等「今日は楽しかった」と思える経験を積み重ねていく。ママたちも我が子だけではなく、いろんな子どもと接しながら、自然と助け合うことができ子育てへの自信になっている。プランター栽培であるが、早速ジャガイモの植え付けを予定している。</p>
-----------------	---

●暑さや寒さが厳しかったため、思うように外に出られなかったが、春の兆しを感じるころ第二子も歩行ができるようになり、「カモもいたね・ザリガニはいなかった！・ダンゴムシつかんだよ」等と散歩は楽しい思い出になった。

●プランター栽培は、少ない収穫であったが経験を大事にランチで味わい喜びを共有した。

○令和5年度の入会登録者は18人その殆どが、利用者ママの紹介であった。実際の利用が友だち間で話題になり見学のきっかけになった。また、ネット情報からの見学希望の申し出も続く。転勤や仕事替え等でルームの近くに引っ越してきて、探し求めてつながるケースがあった。

見学は可能な限り予約なしで受け入れている。但し連絡方法だけは確認する。※(見学は無料)

●二年連続で入会登録者は18人、利用者ママからの紹介でつながり継続利用となった。特徴として、集団生活半年前に入会するケースが「遊べない・食べない・たたく・言葉が遅い」等の問題を抱えていた。気持ちを認めながら人間関係を築き遊びが楽しい事を感じるまでになった。

○ルーム利用対象を未就園児としているが、何故か令和5年度は、療育帰りの子ども・幼稚園児・保育園児・小学校児童・引っ越し先の地方から里帰り相談等利用日以外や時間外対応が必要であった。子どもの多様性を認め安心する場所として更に利用は続く見込み。諸事情に応じた関係機関や専門職との連絡を取り合い関係は継続する。

※(相談内容は集団生活の自立・仕事と子育ての両立支援・入学に向けて児童間のいじめや友達関係・特性を持った子どもの学校側の対応等)

●5年度に引き続き未就園児以外の利用、特に療育センターを必要とする子どもの居場所提供は、年間を通して稼働日の金曜日は、午前は通常利用、午後14時半からは療育センター帰りの子どもたちの利用と1日に2回オープンした。16時過ぎまで、寝転んだり好きな遊びをして家路に。親も子どもも精いっぱいの日である。

●療育センターの職員から、緊張した親子が、ほっとできる
ルームがあることで、どんなにか救われていますよと連絡をもら
う。

○実家的居場所の緊急に必要とされるケースは、何時でも受け入れ
子どもの安全を図り関係機関に連絡する。

●特別な預かりは2件あった。1件は父親に預けられないケース1
年生の子ども・2件目は弟の急病致し方ない事情であった。今年度
も療育センターに繋げたケース1件を含め、ルームと長年関わり信
頼のある発達コーディネーターと共に成長見守り、必要に応じて母
親への助言も行い育ちを助長した。


○食育は、地元野菜を使った家庭的なお惣菜は、子どもだけでなく
親も季節の素材の取り入れ方や、調理方法のアドバイスを
知る事で、家庭での調理に活かし、結果子どもにもそれが還元されて
いると話の端端に感じる。食事は、楽しく・美味しく・好物をお
替りできるランチを提供し全てに通じる『意欲』を育てていく。

※母親からのランチへの思い（アンケートから抜粋）

少し思い起こしただけでも、芋茎、コリンキー、まこもだ
け…など一度も買ったことも調理したこともないお野菜を
ランチのおかげで知る事ができましたし、いつも決まった
味のお浸ししかレパートリーがありませんでしたが、白だ
しやお味噌・柚子胡椒を使うなど、新しい味つけもいつも
学ばせていただいています。私の様に小さな子どもをかか
える母親だと、レストランでの外食以外で、普段、人に作
っていただいたあたたかいご飯を食べる機会はそうありま
せん。それは利用者にとって、ただ美味しいだけでなく、
心が元気になる要素の一つだと思っています。

●発達コーディネーターのコメントである。

ルームの食事風景は親子間のコミュニケーションのやり取りの様
子が見れて毎回大事なことに専門職として気づかされること
です。そして提供されるランチのおいしさです。子どもから見て
「食事は楽しく」が一番です。加えてボランティアスタッフの関
わりと子どもとの距離間隔、見守る位置関係が絶妙で「安心」と

	<p>「安全が守られている雰囲気」があり、様々な発達のタイプの子どもにとっても安心感が見て、ルームで過ごす時間が自然と心地よいものになって居ることが窺われます。</p> 
<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>《活動内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施期間：年間を通して実施した。 ●実施場所：自宅開放「おいでルーム」1・2階フロアー居場所として提供、イベントのピアノを使つての音遊びや行事のクリスマス会に利用した。 ●利用プラン <ul style="list-style-type: none"> *利用日 毎週月・金曜日を基本とした。※都合で曜日変更はなかった。 *月1回・水曜日幼稚園児の利用が少なくなり、予約状況を見て通常利用に切り替えた。 *第3日曜日事前予約制の5組限定、元利用者の幼稚園や保育園児の兄弟ケースや家族単位で利用賑やかであった。 *通常利用時間 10時～13時 *月1水曜日園児利用日は11時～14時おやつサービスあり。予約状況により通常利用に切り替えた場合10時から13時とした。 *月1日曜日は10時30分～13時30分 *利用代金 1人500円(設備費用及び環境整備に充当) *手作りランチ代 大人600円・子ども300円 お弁当持参も可。値上げラッシュが続いたため、工夫がしながらのランチ提供になった。

《実施内容》

(1) 親子で楽しむイベントは、通常利用日他も行う。

○季節の習わしは大事にして伝承していく。

○ミュージックファシリテーターを招き、心が和む音遊び 30分程度、参加費は無料・謝礼として 5,000 円ルームが負担

○時短で作るお惣菜教室年間 7 回実施

※ (7・8・12・2・3 月を除く)

要望のあるイベントである。子育てしながらの食事づくりは手早く作り置きが出来る惣菜である。活用できる材料選びや段取り

ポイントなどを見て味見して学ぶ。

※参加費 1 回 1,000 円 (9 時 45 分～11 時 15 分)保育あり

●季節行事はルーム内の装飾から始まり、習わしは主にランチでの伝承となった。

●ミュージックファシリテーターの音遊びは、年間で 5 回実施ピアノやアコーディオンに触れる機会にもなり、それぞれの楽器演奏にママたちは癒されていた。

●時短料理は 5 回実施した。参加者からの感想は、習った料理「簡単茶碗蒸し・なんにでも使える野菜団子・ミートソース」作りました。季節の未知の食材との出会いが新鮮でした。食材の色を大事にすることやジャガイモのすりおろしがとろみになること早速やってみます。仕事復帰で参加できないことが一番の心残りですが、たくさん学ぶことが出来ました。段取りと手順仕事にも活かせますね。



(2) 利用状況や子どもの様子を見て、異年齢で遊ぶ日・同年齢で遊ぶ日を設け、それぞれの育ちを助長する。2024年度は1歳児2歳児とも年齢ごとで遊ぶ生活を共にする経験を積み上げていく。

●0歳児と2歳児女子の兄弟ケースが多い年度で、2歳児単独で遊ぶことは難しかったが、利用時間内に2歳児だけで遊ぶ機会を積み上げた結果、共有した遊びを楽しめるようになった。また、母子分離で散歩にも出かけ、ママは？の不安もなく固定遊具で遊ぶ姿は頼もしく感じた。2歳児の遊びをじっと観察、母親との距離感も出来ていつの間にか輪になって遊ぶ姿はみんなを笑顔にした。



(3) 対面で年間5回(7・9・11・12・3月)長年の発達心理職が子どもの遊びを観察、適切なアドバイスが受ける機会を設ける。また、必要に応じた個別相談も実施する。

※1日(9時半から14時迄)謝礼10,000円

※元利用者が幼稚園児や学童になっても個別相談は受けられる。
個別相談は申込制40分=3,500円)

●計画通り2歳児を主に遊びや食事の様子を観察、今大事にすること、褒めて伸ばすことを盛んに話していた。

個別相談も3件ほどあり、いずれも子育てに悩む母親とご夫婦からの相談であった。料金改正に伴い5,000円になった。



(4) 食育の推進

○アレルギー児も母親に必ず確認してもらい対応する。

○食育は、食品の感覚過敏児も含めて、無理強いしない・食べる

気持ちを尊重する・好きなものがあればそれで良いとする。

○離乳食は、発育を重視し月齢にこだわらず、食べようとする意欲と舌の動きを見ながらすすめる。離乳食代 300 円(指導代も含む)

●利用が事前予約の為、今年度ひとりのアレルギー児が利用の日は、ランチもできるだけシンプルな材料で調理し同じものが食べられるよう配慮した。離乳食も個々の育ちを見極め焦らずに進めた。安定した姿勢とリズムよく食べることを大切にした。1歳前には手づかみ食に移行した。

新会員になったママの悩みが多かったのは『食べない』が多かったが、その後の経過で食べるようになり、ママの安心感につながった。



(5) SNS 運用において、FaceBook【子育てサロンおいでルーム】の 2024 年 2 月現在のサロンの会員は、利用者・元利用者・おいでルームの支援者を合わせて 72 名(昨年度+10 名)。利用日毎に写真を添付した利用状況の投稿に対し、利用者の“いいね”を数多くいただいている。

また、一般社会向けに情報発信をしている Instagram【おいでおいでルーム】の現在のフォロワーは 96 名。投稿内容が限定されているものの、90 日間で 100 件近いリーチがあり、このうち 3 割程度はフォロワー以外が占めている。公式アカウント【おいでおいでルーム】の友達登録数は 63 名。利用者のカレンダー等の情報へのアクセスビリティが向上し、SNS リンクを含め、各種情報閲覧に最低でも毎月 10 件以上のアクセス数となっている。利用日にはランチ情報を更新し、それを見た利用者の総菜購入等に結びついているケース、今までは電話にて受けていた遅刻・欠席連絡がチャット活用になったことで、利用者の連絡時の負担軽減にもつながっている。

●FaceBook【子育てサロンおいでルーム】の 2025 年 3 月現在のサロンの会員は、利用者・元利用者・おいでルームの支援者を合わせて 85 名(昨年度+13 名)。利用日毎に写真を添付した利用状況の投稿に対し、利用者の“いいね”を数多くいただいている。また、一般社会向けに情報発信をしている Instagram【おいでおいでルーム】の現在のフォロワーは 114 名(昨年度+18 名)。投稿内容が限定されているものの、90 日間で 500 件ほどのリーチがあり、このうち 3 割程度はフォロワー以外が占めている。公式アカウント【おいでおいでルーム】の友達登録数は 99 名(昨年度+36 名)。2025 年 2 月より公式 LINE アカウントの有料プランを利用、メッセージ配信数の上限を増やし、おうちルーム利用上のお知らせ、イベントのお知らせ、季節のご挨拶等、こまめな情報配信を実施。利用者は予約サイトへのアクセス、惣菜販売情報の閲覧、その他 SNS へのリンクの他、利用日当日の遅刻・欠席などの連絡手段として主に活用している。

参加者の年代	未就園児と その保護者	定員 (1回あたり)	5家族限定 キャンセル待ち予約あり
実施頻度	週二回(月・金) 月1回(水) 第3日曜日	活動日数 (年間)	119日
スタッフ体制	代表1名・スタッフ1名 ボランティアママ2名・ボランティア1名 サポーター2名		
連携する団体・ 連携の手法	<p>○対面やオンラインでの参加が可能になる。中原区の子育てネットワーク・ボランティア部会等がやっと動き出す。地域の情報がしり得ることは活動する上で大きい。</p> <p>●子育てに関する会議が対面になりできるだけ参加、情報収集に努めルーム内でも共有事項とした。</p> <p>○子どもを取り巻く問題の解決は、緻密な連絡で連携を図り共通事項とすることが大切かつ必要である。子どもの安全と母親の喪失感や孤立に注意をはらい、支援が必要と思われた時は、躊躇せずに関係機関と問題解決にあたる。</p> <p>●関係機関と連絡を密にする事案はなかった。利用者同士の関係性にも恵まれた。</p>		
取組実施により 見込まれた効果	<p>○5類感染症が収まることはない。自分の命は自分で守るほかない事機会あるごとに知らせ、居場所としての環境は、引き続きこまめな消毒・換気等を行い、安心安全な環境を維持することが義務である。</p> <p>○子育ては長い道のりで、誰しものが何某かの悩みを抱えている。必要な時に必要な支援が差し伸べられる様、利用時のちょっとした関わりの中で、利用者さん・スタッフも周囲30センチの人間関係大事に幸せを招き入れ『のんき・こんき・げんき』でいいことを提唱する。</p> <p>○受け入れから何気なく寄り添い、一緒に遊ぶ中で緊張感をほぐす。利用者さんは、ルームへの感謝と手作りランチのほっこり感、心からの「周囲の人への感謝と心の栄養になっている。</p> <p>○実家の親には話せないことも頼ってくる。「言われる事も心で</p>		

聞ける」話していいんだという安ど感が、気持ちの切り替えになっている。何より子どもの成長は親の気持ちをかえる。人としても成長し共存し合える関係は幾つになっても宝になる。

●子どもが1歳半の時、1日中泣いて一人で見ている心がボロボロになった時、ルームに夕方駆け込み救ってもらったと。その親子が春から中学生になりますと訪ねてきた。

『いつでもおいで』と書いていただけたことを励みに今日まで頑張りました。その他にも幼稚園入園卒園、小・中・高校・大学の入学卒業の度に成長した姿にお目にかかれる有難さは無類の喜びである。

●年度の途中で引っ越した親子や母子が泊りがけで来ては、悩み事を話だけで元気になって帰っていく。遠方になっても関係は続く。これもルームの活用方法のひとつである。

●令和7年度のルームの在り方について元・現利用者にアンケート(回答数34)を実施。その結果を元に『語ろう！みんなの居場所にするためにどうしたい？』の話し合いを11名が集まり話し合った。1、居場所の存続 2、利用者みんなが協力できることはする 3、実家の母親的存在の安心感は何物にも代えられない 4、子どもたちが大好きな場所であり、青年になっても必要であれば帰ることが出来る場所

であってほしい 5、ルームに行けば子育ての悩みが解消され元気になる 6、ひとりでない。多くの支え合いで助かり子どもが愛しくなった等、たくさんの意見が出た。尊重し合える関係を維持しながら、出来ることを細く長〜く続け、子どもたちの末永い幸せの一端を担いたい。

●10年続けた冊子、『ありがとう子育て応援団！ご縁・絆・結ぶ』も終了する。ルームがある限り貴重な資料となる。

●補助金のお陰で社会情勢にあった運営が出来た事。ルームに関わったボランティアみんなが感謝です。長い間ありがとうございました。

●ルームは新たな形を模索しながらの次年度になる。終わりに18歳の大学1年生が3月末に泊まり、多くを語らなかったが、母さんがルームでボランティアをやっていたこと誇りに思うと。ルームと共に成長した多くのボランティアママや利用者さんに感謝してもしきれない。

